

令和元年度第1回高知市上下水道事業経営審議会 会議録（概要）

日時：令和元年10月11日(金)9:30~11:30

場所：高知市上下水道局 大会議室 ほか

出席者【委員】井津 葉子、北川 一江、楠本 照夫、谷 隆、長尾 達雄
那須 清吾、西森 やよい、藤原 拓、古谷 純代、計9名
※ 50音順 敬称略

【上下水道局】山本上下水道事業管理者、杉本上下水道局長
弘瀬上下水道局理事、岡崎上下水道局次長 他12名

会議形式 公開
傍聴者 0人

1 高知市上下水道事業経営審議会

(1) 開会あいさつ

山本上下水道事業管理者から開会のあいさつ

(2) 高知市上下水道局経営理念について

泉企画財務課長から説明

(3) 水道事業及び公共下水道事業の災害対策の現状等の概要説明について

水道事業は横山水道整備課長から、公共下水道事業は森岡下水道整備課長から説明

(4) 現場見学

城西公園にて耐震性非常用貯水槽の開設デモ、下知水再生センターを見学

【質疑応答】

○楠本委員

ハード面だけでなく、ソフト面として、配備状況、実際に災害が起きた際の対応や訓練内容などが、もっと盛り込まれている方が市民は安心するのではないか。

⇒ 本日は、時間の都合上、ハード面を中心に説明している。実際には、応急給水拠点における整備状況をお知らせしたり、自主防災組織と一緒に耐震性非常用貯水槽の開設訓練を実施しながら、局の取組を説明するなど、事業への理解を深めていただけるよう努力している。

○井津委員

最近の県外の災害状況と関連するが、長期停電時の対応はどのようにになっているのか。

耐震性非常用貯水槽は、一定の揺れがあった場合、自動的に緊急遮断弁が閉じるという説明であったが、緊急遮断弁はどの程度の揺れに対応しているのか。遮断されることで、流れていた水を止めてしまうと、他の地域に流れていかないなど、マイナス面はないのか。

⇒ 応急給水拠点等については、停電の影響はない。浄水場で停電が起きた場合、2日間程度、自家発電できるよう発電機・燃料を準備している。もし、それ以上の停電となった場合には、高知市の災害対策本部に燃料を優先的に回してもらうなどして、対応する予定となっている。

耐震性非常用貯水槽は配水本管から管を引き込んでおり、通常時、水は設置されたタンク内を通り、配水本管に戻っていくが、震度5弱以上の揺れを感じると、緊急遮断弁が作動し、タンク内に水が貯まるような構造になっている。緊急遮断弁が作動しても、設置されたタンクへの配水が遮断されるだけであり、配水本管では水が流れるので、他地域への影響はない。

○谷委員

台風15号で千葉県が被災した。停電のほか、断水も発生したと思うが、断水等の原因について情報収集しているのか。また、高知市としての対策に漏れはないのか確認し、その結果を市民に示したら、関心を集めのではないだろうか。

⇒ 調査したところ、千葉県は大きな浄水場の区域では、すぐに給水が再開されていた。しかし、山間部にある比較的小さな浄水場が、停電の影響を受け、長期間、断水しているようであった。電柱の倒壊等、現地に行けない状況が続き、復旧に時間を要したとも聞いている。本市においては、土佐山・鏡など、山間部の水道もあるので、対策を含め、検討課題と考えている。

○長尾委員

町内会連合会で、避難所開設訓練を実施したり、マニュアル作りをしている。水が出ないという想定で訓練をしているが、先ほどの説明では、配水本管が損傷しない場合、水は学校にも届くということであった。もし、水が使えるのであれば、訓練内容が大きく変わってくる。

⇒ 資料7頁に示しているように、避難所として指定されている学校等があるが、全ての配水管の耐震化が完了している状況ではない。青色と緑色で着色されている部分が、耐震化が完了した配水管なので、地震が発生した後も、水は出ると思う。しかし、全ての配水管の耐震化が完了するには時間がかかるので、水が使えない想定の訓練は、今後も続けていただきたいと思う。上下水道局としては、各避難所に給水タンクを構え、そこに給水車で水を輸送するという訓練も進めている。どちらの訓練も同時並行で進めていきたい。

○長尾委員

水道は2022年までを集中投資期間として、積極的な投資を進めているようだが、下水道についても、できるだけ早期に整備してもらいたい。先日、宮城県名取市に視察に行った際、トイレの使用が大問題となったと聞いた。発災後も水道・下水道が使えるとなれば、水を飲むことができ、トイレが使えることとなる。長期浸水区域外であれば、避難せずに自宅にいることができると思うので、そういう状況を、ぜひ、実現させていただきたい。

⇒ 最終目標は長尾委員がおっしゃられたような状況にすること。しかし、まだ時間を要するので、進捗状況を皆さんに提示していきたい。発災後は、簡易滅菌による汚水の放流など、多少、不自由な生活とはなると思うが、水道・下水道を使用できることをめざし、事業を進めていきたい。